

## 第4回 未来の京都創造研究会」摘録

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 1 日 時 | 平成21年4月21日（火）18：30～20：45 |
| 2 会 場 | 消防庁舎7階 作戦室               |

### 0 はじめに

事務局：岡本委員から御欠席の連絡を頂戴している。

本日は招請委員として、堀委員に出席していただいている。

平成21年4月から、次期基本計画策定支援プロジェクトチームのメンバーを拡充しており、そのメンバーが傍聴させていただいている。

新 川：本日の議題は2つ。1つは策定方針の中間報告書の案について、もう1つは重点戦略について。研究会の委員とプロジェクトチームメンバーに熱心に取り組んでいただいていたが、本日、中間報告していただくことになっている。

### 1 次期京都市基本計画策定方針（案）中間報告書」（案）について

新 川：これまで3回の研究会で議論していただいていたが、方針案を中間段階として取りまとめをしたい。

それでは、**資料1**に基づいて説明していただきたい。

事務局：（**資料1**に基づいて説明）

（各委員からの質問等はなし。）

新 川：特に問題がなければ、この枠組みで中間報告させていただく。

今後、事務局と私の間でまとめさせていただき、来月初めには市長に提出していきたいと考えている。何かあれば、今週中を目途に言っていただければありがたい。

### 2 重点戦略について

新 川：2つの部会を設置し、その中で4つのユニットを構成させていただいた。

各ユニットが面白い、活発な動きをしていただき、本日の報告にまとめていただいた。改めて委員の皆さん、次期基本計画策定支援プロジェクトチームの皆さんに感謝したい。

進め方は、各部会に属する2つのユニットから重点戦略を報告していただき、その後、意見交換をしながら検討を深めていきたいと考えている。

その後、ユニットがどのような検討をし、どのような性格の議論をしているのかを共有させていただきたいと考えている。

今日の議論を踏まえて最終的にとりまとめ、未来の京都創造研究会の策定方針の案に繋げていきたいと考えていきたい。

それでは、都市部会から報告していただきたい。

#### （1）都市部会

Aユニット：（別添資料に基づき説明）

Bユニット：（別添資料に基づき説明）

堀：様々な自治体の環境計画づくりを支援しており、その経験からすると、今回のように若い職員が参加する取組は面白いと思っている。

他の計画づくりでは、自治体職員の積極性のなさがネックとなりがちである。

一方で、今回の重点戦略の検討が、環境等の個別の分野にどの程度コミットすればいいのかは難しい。重点戦略が個別計画の縛りにならないかが心配。

完成形を研究会でつくってしまうと、市民がいない場でつくってしまうことになる。完成形をつくるときに市民参加を求めていく必要がある。

市民とNPOのパートナーシップという言葉を使うが、市の担当者が変わってしまうとNPOを下請けとしてしかとらえない傾向があるので、引き継がれる理念が大切だと感じている。

**新 川**：今回は研究会としての方針提案であり、今後、京都市としては正式に審議会を設置し、その中で市民の意見を聞き、市民参加を得て、基本計画の策定に進んでいくと思う。研究会としては、検討材料を提供するという位置付けをしている。ただし、若手研究者や若手職員のアイデアをまとめて提案していこう、という積極的な市民の提案としてとらえていただきたい。中間報告、最終報告でも市民参加の点は強調していきたいと考えている。

Aユニットに対して質問したい。人が集まり、育ち、文化が生まれる時に、それを作っていく条件、場等のイメージはあるか。大学や企業という単体ではなく、様々な違った要素が集まる場で何かが生まれる、という観点もあるのではないか。

**山 本**：京都市では、工業技術センターと繊維技術センターを統合して、KRPで融合し  
〔A ユニ  
ットメ  
ンバー〕ていこうという取組を行っている。その地域には、ベンチャー企業も集積しており、その中にアーティストを招致するなどの取組を行えば、何かイノベーションが起こるのではと考えている。

**古 川**：伝統産業に関わる実業者へのヒアリングでは、「東京へ行けば他業種との出会いがある。海外へ行けばそれなりの評価を得られる」と言っており、京都だけではなく、  
〔A ユニ  
ットメ  
ンバー〕海外などとの交流も形にしたいな、という思いはある。

**新 川**：特にBユニットについて、祭のゴミ、町家街などに着目したライフスタイルの提案は、基本計画づくりでは面白いアイデアであるが、家とか住まいがライフスタイルの基本になると思っている。個人的には京都で暮らしている方に向けた提案になっていると嬉しいな、と思う。観光の観点で、生活の観点も議論していこうということか。

**中 村**：住まいに関しては、京・町家スタイルの提案で、半分はテーマパーク、もう半分  
〔B ユニ  
ットメ  
ンバー〕は町家街に住んでもらうという提案である。今後、京スタイルの中で、環境と交通と観光の分野において、生活のスタイルや地域力など、範囲を広げるべきだと考えている。

**神 吉**：京都市の伝統産業など、魅力として挙がってくるものは、トップクラスのすごいもの、質の高いものである。これが京都のすごいところで、つらいところでもある。京都の特色としては、伝統産業以外の産業や職人が既にすごい、というところがある。京都では普通と思われている部分が十分に質も高い。普通のもの、目立たないものが衰退するのが問題であり、そこに着目し、維持することが必要。簡単にいうと、町家は保存物件以外も残さないと意味がない、ということ。

今回、伝統産業に着目してとりまとめていただいたが、ここの一言一句を認めさせよう、基本計画に入れようというよりは、色々な産業を取り上げる可能性があって、それぞれの視点や未来像に照らしていくという視点でアプローチすることが一つの挑戦としてあった。戦略を練り上げるための演習課題として伝統産業を取り上げたということ。

個人的な提案であるが、重点戦略であるので、幾つかの課題が出てくると思うが、今回の一つのテーマは「どうやって議論をし、現状認識をしたか」について、様々な専門部署の担当者から話を聞き、アウトプットを出したという会議の持ち方自体を成果としてとらえてあげてほしい。「出てきたアウトプット」ではなく「アプローチの仕方」自体を提案としてとしてとらえる方がよいのではないかな。

**空 閑**：京都は観光のまちであるが、リピーターが来てくれるまち京都、奥深さを来街者に伝えられる京都、という視点を確認した。住んでる人にもやさしくこれからも住み続けたいと思うようなまちという視点もつなげていきたい、という意見交換もした。

**辻 田**：Aユニットは産業関係を専門にする職員とそうでない職員がいた。専門にしている職員がさらっと結論をまとめるだけでなく、そうでない職員が伝統産業に焦点を絞った提案を別に作成した。

もう少し時間があれば、この2つの重点戦略を一緒に練り上げていき、いい意味での交流、融合が行われ、従来とは異なる産業施策が出てくるのではないかなと思う。

**乾**：新しい産業と伝統産業の保護がうまくやっていくということを考えていかなければいけない、という議論をしてきた。結局、それぞれが分かれて議論した。未だ、融合しきれていない部分もあるが、創造だけでなく、伝統産業の成長というキーワードを入れていくために、部署を横断し、これまでの考え方を変えていき、団体に対する支援策を超えた施策を考えていく必要がある。

**新 川**：私はAユニットの2つの提案はバラバラではなく、1つに聞こえた。創造には伝統が必要である。引き続き楽しみにしている。

**松 中**：Aユニットに対して、産業を育んでいくということは、将来の都市像をどうとらえるかということを考えるべき。高度集積地区をイメージするのか、西陣をイメージするのか、これらを融合するのか。産業を育成する物理的な場をイメージしてはどうか。

Bユニットについては、色々ヒアリングしていただいた。ライフスタイルでまとめると幅広くなっていき、間口が広がって大変な作業になるが、わかりやすいまとめになった。

町家については、観光客向けという観点で見るとよりは、京都に暮らす方々の視点で提案していく方がよいのでは。地に足をつけて、京都に住んでおられる方のライフスタイルを提案する、南部に新しく作るのであれば、そこへのアクセスを考える。今の町家を考えるのであれば、今住んでいる方々をどうするのかを考えてはどうか。

ごみゼロについては、根本的には資源を大切にするというライフスタイルの提案である。

観光・環境・交通のトライアングルについてであるが、産業・世帯・家計などの視点も取り入れていき、イメージ図もバージョンアップしていけばいいのではないかな。

**平 井**：産業やライフスタイルについては、AとBに共通する視点が出ている。和のライフスタイルと京都のライフスタイルなど、うまく共通するものがあれば、相乗的な効果を意識すればどうか。京都のビジネススタイルについても両方で提案している。

**リ ム**：非常に重大な問題提起をされているということを感じた。

都市部会のAユニットとBユニットの提案を解釈すると、内陸型で、1200年の歴史を持つ147万人都市京都の市民のライフスタイルをどう考えるか、という提案である。伝統と革新の融合、モータリゼーションだけではだめ、観光客と生活

者の折り合いなど、京都という都市のライフスタイルに対する端的な提案が出されたということ。

伝統産業という視点から産業というものを考えていくヒントを得た。

**神 吉**：基本計画を作っていくときの市民参加について。

基本的には市役所の中で議論していいのか、という悩みがユニットの検討の過程であった。まずは仕事の中で議論していくことになるが、今後、市役所以外からの意見の取り入れ方や、モデル的な取組など、市民等のセクターと交流するのか、ということに気にしながら検討してきた。

今後、こういう風に進めたらいいと思う、という具体的な進め方についても最後に提案していけばよいという議論もあった。

**乾**：この研究会の最初の議論の中に、未来まちづくり100人委員会との連携という議論もあったが、4月25日に中間報告を行うので、その場に参加してもらい、市民がどのような議論をしているのかを見てもらい、政策づくりの参考にしてもらいたい。

**新 川**：4月25日には次期基本計画策定支援プロジェクトチームも参加されると聞いている。

神吉委員の提案については、未来の京都創造研究会からの提案をどうするのか、という点について今後も相談させていただきたい。

## (2) 生活・地域部会

**Cユニット**：(別添資料に基づき説明)

**Dユニット**：(別添資料に基づき説明)

**乾**：Cユニットでは、コミュニティに対する考え方がメンバー間で異なっていた。組織として、何故地域コミュニティが必要なのかという認識を統一しないと、実行する際に市役所内の対応がバラバラになる。実行していく場合、組織として必要性の認識を統一していくかという視点も大切。また、企業をコミュニティに関わってもらいかも検討課題である。

Dユニットについては、大学コンソーシアム京都の取組に加えていけば面白いのではないかと思った。

**堀**：自治会の参加者が減少しているという現状があり、自治会が行政の最末端を担わされているという意識を持っている人もいる。新しいマンションが建つと、マンションだけの自治会が組織される傾向もある。10年後の京都における自治会のイメージはどのようなものか。

コーポラティブハウスなど、地域に関係なく、新しい地域を支援する、または民間に任せる、という議論があったか。

**今 富**：自治会については、色々な事例を見ていくと、住民側から行政の末端としてとらえられているという現状はある。住民と行政のあいまいな関係を脱し、自治会を行政の手足ではなく、自主的な活動組織として考えていくべきだし、行政からの依頼事項が多くて忙しく、自主的な活動が出来ていないという面もある。10年後の具体的な像は現状では持っていないが、6月までに議論していきたい。

**高 橋**：一人一人が京都市民として活躍するという提案をしており、京都に関わる人々すべてを京都市民として位置付けるべきだという議論をしている。

**空 閑**：地域でのコミュニティが必要かという根本的な議論などをしてしたが、町内会へ

の参加は損得の問題ではないという考え方、支え合って生きていくため互いに負担していくという価値をどうやって作っていく、広げていくのが大切。個人の生活を優先してきたが、周囲を見回した時に、子育てや介護の問題が生じてきており、行政に関わる立場として、どのように関わるのかを考えていくべき。確かに煩わしさはあるが、しかし関わりは大切であり、行政としてどう関わるべきかを考える必要がある。

ただし、10年前のコミュニティを再生するのではなく、新しいコミュニティを創造していくための方策を考えていくという流れであった。

**秋 月：**非常に現時点では議論が上手く進んでいると感じている。Cユニットの観点については、セーフティーネットの限界を見て、公助の矢印を共助に向けようという観点であり、それは全てのユニットに関連すると思う。

京都市というところのないものについて、かなりポジティブなとらえ方をされている。京都の潜在力について、ポジティブなアセスメントをされている。

もう一つの共通点としては、人を育てるという観点。京都があつてよかったといえるためには、京都にることによって人材、人間力が向上していくことが必要という観点が各ユニットの観点にあった。

ポジティブな見方ができる背景としては、これまでは京都や京都社会という定義付けが極端に狭かったということである。これは地方の中小都市に比べても狭い。もう少し広げようよ、という観点である。

基本計画の作り方として、しっかり作りこむ形と、方向付けする方法があり、Bユニットの提案するスタイルについては、後者の形を目指すなら、プレゼンの技法として在り得る。今後の方法論としてはありうる形である。

委員が先導することなく、自然にこういう形が出てきたのは興味深い。

**金 武：**共助と公助の関係があり、公の部分についてはルーティンの部分があり、財政的に厳しくなっているため、共助に移行するというところか。

現在の計画と重点戦略の関係図を見ると、これまでの取組に資本を注入してきたが、うまくやれてないという現状が見え、ここがウィークポイントであり、対応していかなければならないところである。

Dユニットにしてみれば、分野別計画では2つしか関わっていないのであるが、事業が多く提案されている。これまでの市役所の業務の進め方の問題点、表現の仕方に問題点があるのではないか。ライフスタイル毎にまとめると、案外部分的に課題があるということがわかる、ということは別の形で市民に見せることができれば非常によかったのではないか。

Bユニットについては、現在の基本計画では出てこなかった自転車、祭りのごみ、町家などの論点がきっちりと出てくるということは新しい計画で大切にすべき部分である。こういう部分が若手の職員から出されたということが、新しい計画づくりの方法論を議論するという観点からも評価できる。

Aユニットの論点については、現計画との関係でみれば、第2章の多くに関わっており、これまで取り組んできたにも関わらず成果が出ていないとすれば、現在取り組んでいることの再編集、視点の変更について議論が必要ではないか。創造都市論については、個人的には遅れているとは思わないが、遅れているという評価をする人もいる。

**大 山：**ユニットの活動と職員の研修に参加したが、この研究会で何をやるのかということであるが、夢があつて、面白い、シンボル性のあるものを提案するということが

大切。

こういう取組の時に思い出すのは2点。1つはガンジーの糸車。宗教対立をまとめる時に倉庫にあった糸車を持ち出し、国民の心を1つにまとめていった。シンボルを提示し、まとめていく手法である。

もう1つは宮崎県において、県庁を観光地として位置づけ、それがシンボルとして宮崎を発信していくことになった事例である。そういうものを研究会ではシンボルとして提示することが必要ではないか。

京スタイル、U24など、シンボリックな意味を持たせるような提案を各ユニットがしていけばいいと思った。

**リム**：Dユニットの未来像は3世代に分けなくてもよいのではないかな。全ての世代が笑顔、夢、安心、生きがいをもつべき。

今日、困っている方にコミュニティがサポートすることで救済する現場を見て感銘を受けたところ。

都市は100年単位ではドラスティックに変わるが、10年ではそれほど変わらない。政策のプロとしての政策企画室として、各分野別計画をどう統制しているのか。考えようによっては、分野別計画の方が長期的かもしれない。行政課題と基本計画の課題をどう整理するのか。原案は事務局が提案し、重点戦略にどう重ねていくのかという視点を持って議論をしていけば、もっと面白い議論ができたのではないかな、と感じた。

**乾**：新しいチャレンジをしてきたので、リム先生のような視点が出てきたのではないかな。今後は、専門部署の職員も加わってくるので、面白い検討が始まるのではないかな。

### 3 最後に

**新川**：計画全体のフレームの中で分野別計画、区基本計画との関係整理を今後行っていかなければならない。一方で、基本計画はあらゆる計画の上位に位置しなければ意味がない。

そこで、この研究会としては、最終の研究会を行い、まとめを行っていかなければならない。ユニットの重点戦略のまとめもしてもらう必要がある。

**事務局**：第5回の研究会は6月に開催し、方針案をまとめる予定としている。

今後の進め方についても、今日様々な御指摘を頂戴しており、事務局でとりまとめたうえで、方針案を検討して参りたい。その前に、委員の皆様は個別に御相談させていただきたいと考えている。

ユニットのメンバーについては、引き続き重点戦略について議論してもらいたい。

**堀**：研究会は次回が最終回のようなのだが、私が意見を言えるのは今回だけか。

**新川**：最終提案に向けて、堀委員には引き続きユニットで御議論いただければ、と考えている。

各先生にはユニットの議論に入っていただくとともに、最終的な結論をとりまとめていきたいと考えている。

次期基本計画策定支援プロジェクトチームも正式に設置されたようであるので、より専門的にブラッシュアップしていただけるようである。

重点戦略の位置付けについては、基本計画につなげて議論していくべきであるという指摘もあったが、こういう進め方で取り組む意味もあると考えている。意味のある進め方であった、という結論を出したい、と考えている。（終了）